



第 64 号

石田 郁雄
KCCN 理事
司法書士

京都アニメーションのこと

今年5月1日に始まった令和も4か月経ちました。自動車の暴走による死傷事故や親族間の殺傷事件など、決して平和とは言えない始まりから、7月にはとんでもない事件がこの京都で起きてしまいました。京都アニメーションの放火事件です。

この事件で初めて京都にそのようなアニメ制作会社があることを知った方も多いと思います。私は数年前に京都アニメーション（以下、京アニといいます）の存在を知りました。2015年にテレビで放映された「響け！ユーフォニアム」という作品を観て、京アニを知ったのです。ユーフォニアムとは金管楽器の一種で、ほぼ吹奏楽の中でのみ使われる楽器。このアニメは宇治市の架空の高校吹奏楽部を描いた小説のアニメ化作品です

（宇治市には京アニの本社があります。京アニは以前から地元を舞台にした作品を作ってきたのだそうです）。

実は私は、中学の吹奏楽部でユーフォニアムを始めて以降、今でもこの楽器を演奏しています。ユーフォニアムをタイトルに含むアニメが放映されると聞き、何気なく見始めて、すぐにハマってしまいました。というのは、このアニメがすごく現実に忠実に作られており、吹奏楽部経験者が観ても感心するくらい完成度が高かったからです。アニメというと、中高生や若い人が観るものだと思っていた私でしたが、完全にこの作品のファンに、そして京アニのファンになりました。アニメ「響け！ユーフォニアム」は人気を博していくつかの続編が作られ、今年6月にはさらなる続編が作られることが発表されていました。

そのような中、ある平凡な平日の午前、スマホのニュース速報で、目を疑う事実が伝わってきました。テレビをつけると煙を上げながら燃え盛るスタジオの光景が流れています。負傷者多数の情報は、そのうち死亡者の数を伝える内容に変わっていききました。あまりに信じられない出来事に私は、これは現実のことなのだろうか、悪い夢でも見ているのではないかと疑ったほどでした。

放火被害に遭った第1スタジオは作品制作の精鋭メンバーが集う場所であったそうです。未来を担う若手のスタッフのほか、有能なベテランのスタッフ、そして多くのアニメーターが描く絵の出来をチェックするアニメーターのトップたる作画監督や作品の総責任者である監督までもが犠牲になってしまいました。

（次頁に続く）

スタジオジブリなど、多くの方が知っているアニメ制作会社とは違い、京アニはアニメファンにしか知られない存在だったことでしょう。しかしその作品の質は非常に高く、「京アニクオリティ」と評されるほどでした。精緻な絵の美しさもさることながら、物語をアニメーションに落とし込む演出技術も驚くべきものでした。一つの作品が発表されると、プロの評論家、アマチュアのファンを問わず、多数の論評や感想記事がネット上に掲載されて、作品が分析されていくのが常でした。

この、非常に高い能力を持つ制作集団であるのに、東京ではなく京都に本社を置き、独自の技術を全世界に発信していくという姿は、京都の伝統技術を支える職人氣質に似たものを感じさせます。もともと京アニは、大手アニメ制作会社が制作する作品の仕上げ作業を現社長の奥様が近所の主婦を集めて行っていたことから始まるそうです。そのような発祥から徐々に会社を大きくし、下請けから自社制作へと成長していった会社なのです（これについてはWikipediaに詳しく書いてあります）。

あまりにも理不尽な事件。これをなぜ起こしたのかは犯人のみが知るところだろうし、背景を含めてこれから徐々に明らかになってくるのでしょうか。個人的な恨みから発したテロに近い大規模かつ無差別的な凶悪事件が今後も起きうるとすれば、それを防ぐ社会的システムはどのように構築するのか。また被害に遭った方やその家族をどのようにケアするのか。小規模な社屋の防火設備は現状のままでよいのか等、多くの問題が検証されなければなりません。

また、事件後、犠牲者の氏名公表についても議論が起きました。会社側は一貫して氏名の公表に反対していましたが、最終的にはマスコミは警察発表を受け、犠牲者の氏名公表に至りました（ただし一部のマスコミは、遺族の同意を得られた方のみを公表しました）。私としても、遺族の同意が得られていない方の氏名の公表は差し控えられるべきだと思うし、犠牲者全員の氏名の公表が社会的に必要なのかは疑問です。しかし、自分の愛好している作品のスタッフの方が無事なのかどうかは、ファン心理として非常に気になる場所であるのは確かで、悩ましい問題でもあります。

事件の理由や背景が解明されたとしても、失われた才能や人材は帰ってきません。本当に残念で仕方がなく、あまりの悔しさに私は声を上げて叫びたくなるのですが、もはや前を向いていくしかないのだと思います。

事件が起こってすぐに、アメリカでクラウドファンディングによる募金活動が始まりました。その後、日本でも募金の動きが広がり、京アニとしても支援金を受け入れることになりました。支援金は8月28日現在、23億円を超える金額が寄せられているそうです。私もわずかながら支援金を送りました。今後、ファンとして私が他にできることは、京アニ作品の素晴らしさを多くの人に伝えることだと思っています。

世界中のファンが京アニの完全復活を祈っています。京アニには、事件のあった第1スタジオのほかに、いくつかのスタジオや関連会社があり、事件後も作品制作が続けられているとの報道は、ファンを喜ばせました。しかし事件による被害はあまりにも甚大で、以前のような会社に戻るには数年、十数年かかるかもしれません。

(次頁に続く)

今回、事件によって京アニの名前が報道に何回も登場し、期せずして全国的に有名になりました。失ったものが大きすぎますが、せめてもこれを機に、京アニの作品が人々に知らればよいと思います。世界中から称讃と尊敬を集め、日本の宝と呼ばれるほどの優れたアニメ制作会社であり、これまで数々の実績を残してきた京アニだけに、事件をものともせず、私たちが驚かせるほどの素晴らしい作品を発表して人々に感動を与えてくれる。そんな以前よりもさらに強く大きくなった京アニの姿を見せてくれることを、私はいつまでも待ち続けたいと考えます。

(2019年8月)